

神奈川県
横浜市

まちの回遊性・滞留性・快適性を 向上させる「ウォーカブル」な まちづくり



公共空間の質的転換による地域価値の持続的な向上

活用したソリューション

- モバイルインフィル®
- 自動走行モビリティ「iino」(ゲキダンイイノ合同会社製)
- グリーン・マルチモビリティハブステーション
- 木質網代(あじろ)構法「T-WOOD® Goo-nyaize」

経緯/活動内容

2020年12月
Park Line推進協議会*の発足(2024年一般社団法人化)

- Park Line推進協議会の活動テーマ**
1. 基盤整備(グリーンインフラ x インフラ分野のDX)
 2. 周遊交通(ウォーカブルを補完するグリーンスローモビリティ)
 3. 地域資源活動(観光まちづくり、公共空間・歴史的資源を活用したまちづくり)
 4. 地域経営(エリアマネジメント)

2022年5月
道路空間の広場化(滞留性・快適性向上)の社会実証

2023年9月
山下公園での周遊交通実証(回遊性向上)

2023年10月・2024年1月
観光庁「観光再始動事業」採択プロジェクトの実施
(歴史的資源を活用したラグジュアリツーリズム)

2024年12月
Park Line推進協議会法人化(一般社団法人)

2024年12月～2025年3月
グリーン・マルチモビリティハブステーションの社会実証

2025年5月
横浜駅中央西口駅前広場でのパーク化実証

2025年11月
山下公園通りでのモビリティ・ハブ事業の企画・整備・運営



モバイルインフィル®
いつでもどこでも人々の「居場所」を提供することが
可能な移動式の滞在型空間



木質網代(あじろ)構法「T-WOOD® Goo-nyaize」
によるパーゴラ(イメージ)

地域と当社が目指す姿

- 民間マネジメントによる公共空間の質的転換により
持続的な地域価値向上を実現する
- 横浜の「水際」と「まちなか」を都市の象徴軸を起点に
つなぐことにより、移動自体を楽しめる港町を実現する



山下公園通りモビリティ・ハブ事業イメージ図
多様な交通モード(EV、自転車、電動キックボード、歩行領域モビリティ等)を
結節した、横浜都心臨海部最大級のパーク&ライド型モビリティ・ハブ



グリーン・マルチモビリティハブステーション



自動走行モビリティ「iino」
(ゲキダンイイノ合同会社)

※(一社)Park Line推進協議会



HP

- 会員企業(2026年5月現在)
- 大成建設株式会社(代表法人)
 - パシフィックコンサルタンツ株式会社(代表法人)
 - 株式会社JTB
 - 株式会社みずほ銀行
 - 大和リース株式会社
 - 株式会社NTTアーバンソリューションズ総合研究所
 - NTT東日本株式会社
 - 株式会社ドコモ・バイクシェア
 - 株式会社博報堂
 - 日本郵政不動産株式会社